第 2013-26 号

恵みと真理のニュース

2013 年 8 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　偶像崇拝を捨て主の前にひざをまずいた時、愛する子供を神様が守ってくださいました。

私は偶像崇拝をする家庭で生まれ育ちながら偶像崇拝をする家庭の旦那に出会 1 男 1 女を産み恵まれる生活していました。結婚した後もっと偶像崇拝をしました。そうする中実家の母が突然脳卒で倒れ入院して半月に亡くなりました。青天の霹靂のような事でした。教会で牧師と聖徒が来て母が亡くなるちょっと前から教会に通ったので葬式はキリスト式で行なうと言いました。しかし、私はその方たちの話を断って“私たちがやります。帰ってくださいとむしろ迫害までしました。
私の娘は学校で先生と友達から勉強と教内外の全ての生活の面で褒められて認定を受けている模範生でした。そのように私に誇りでやりがいを与えてくれる娘が中学校に進学してから彷徨を始めました。いつも誰もいない家が怖くて嫌で友達と外で遊んでました。私たちの夫婦は一緒に飲食店していていつも外働きをするしかなくって子供に関心を注げませんでした。みんな、誠実で勉強も上手だから良く育つだろうと思い私はお金稼ぐ事だけ熱心でした。ある日隣近所に住んでいる人から“最近娘は元気？”と意外の質問を聞いたが何の気も無く“はい元気です”と答えました。どころが、しばらく他の人からも同じ質問を聞いてぱっと気がつきました。調べてみたら、その間、私の娘が私たちの夫婦の無関心の中で思春期で家の外で彷徨していたのです。いつも誠実で勉強も上手だった学生が変わっていく姿を見ながら気の毒だと思った担任先生も驚き痛い心で私に娘に多くの関心と愛をあげように頼みました。娘はクラスのリーダーとして先生の期待も大きかったからです。前から周りの人々からイエス様を信じて教会に行くように進められましたがそのたびに“私はいいから、あなたたちだけ良く通いなさい。私を面倒にするな”と断りましたが娘が変わって私の力と知恵ではどうしても出来ないから主をさがしました。 2006 年 11 月 26 日、生まれて初めて恵みと真理教会に行きました。最初は慣れていなくてたじろいたが礼拝が始まって時間が経ち私の心は平安になりました。祈りは良くわからなかったですが単純に“神様、私の愛する娘を守ってください。以前の生活に戻るように導いてください。今まで私が間違いました。涙を流しながら祈りました。切に祈ると恥ずかしい事もなくて神様に涙の祈りを捧げました。説教に感動を受け偶像崇拝の生活をした事を悔い改めてイエス様を受け入れました。礼拝を捧げるように私のような人を愛し選んでくださり子供にしてくださった神様の愛は私に耐えないほどの大きい事であると悟りました。
私の前の生活を悔い改めさせて、どのように生きる事が真の幸せな人生なのか教えてくださいました。
金曜日の夜その日も夜遅くまで娘が家に帰って来なかったから私は葛藤しました。金曜日の礼拝に行くかそれとも娘を捜し行くか悩んだあげく礼拝に参加しました。その日も涙で目が見えないほどの切なく神様の導きのため祈るうちに一階のロビーに座っている娘の姿が見えました。礼拝が終わって外に出たら娘が嘘のように玄関で私を待っていました。走って娘を抱きしめて接吻して涙を流しながら神様に感謝を捧げました。時間が経ちながら娘は少しずつ友達と関係を切って以前の姿に戻りました。私も時間が経つうちに神様の愛をたくさん体験して、その間聖霊の洗礼も受けいげんと賜物も受け神様に恵まれ信仰生活をしました。このように娘の問題が解決してから今回は旦那の迫害が始めました。旦那とけんかをする日が多くなりました。そうすると神様の対する私の信仰がもっと強くなり教会の全ての礼拝だけでなく区域礼拝も私の事業場で休まずに捧げました。
どころが、その間肉体にむりをしたか五十肩で肩の強い陣痛で とても苦しみました。旦那は何の対策もなく 7 年間やっていた事業を辞めそんな状況で私は倒れ病院の救急室まで行きました。しかし、感謝する事はその次の週にある月曜日祈り会に参加して“神癒と祝福祈り”時間に当会長牧師の祈りを受け神癒の恵みをうけ五十肩が治癒されました。
その日半分ギブスをして教会に行って礼拝に参席しましたが、礼拝が終わって出る時にはギブスを解いて元気に腕も回しながら出ました。ハレルヤ！区域の執事さんたちも一緒に神様に栄光を捧げ祝ってもらいました。主の大きな愛と驚くべきの権能を体験の日はわすれません。
私が家に帰って来たら旦那は驚いた目で繰返して腕を見ながら“本当に痛くない”と聞きました。大胆に主の愛と能力を大胆に伝える事が出来て心が熱くなり喜びが溢れました。今まで願っていた教会の奉仕も決断して実行してもっと恵みと聖霊に満たされ日々を喜びと感謝で過ごしました。対策も無く辞めた事業も空いている店が多かった状況でも主の摂理と助けで権利金まで全部もらって事業を整理しました。
神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。（ロマ書　８：２８）御言葉のように祈りに答えられ治癒を受け様々な問題を主の中で全部解決され、私たちの家族は日々をただ神様に感謝しながら過ごしています。
娘は現在教会学校で児童部教師として頑張って奉仕する一方青年連合会でも積極的です。もっと感謝する事は軍人である息子は軍宗兵士として教会と生徒をよく使えています。神様がくださる知恵で周りの人々から愛を受けならが兵営生活をしています。
息子は入試に失敗して大学浪人生活をしながら自分の足りなさを深く悟り、神様を敬い頼り祈る信仰を持つようになり結局神様の恵みで 4 年奨学金を受けて大学の進学の夢を成し遂げました。
私は救ってくださり祈りに答えてくださり、区域長の栄光な職分も与えて下さる主、この事をよく担えるように万事が役となる恵みをくださる神様に感謝を捧げます。子供が神様を畏れ愛し真実に生活するように導く恵みにさらに感謝を捧げます。全ての栄光を神様に捧げ教会を支え福音を伝える清い使命のため今日も明日も最善を尽くします。ハレルヤ！

［信仰コラム］　毎日（まいにち）死（し）ぬ人（ひと）

″兄弟たちよ。わたしたちの主キリスト・イエスにあって、わたしがあなたがたにつき持っている誇にかけて言うが、わたしは日々死んでいるのである。″（ コリントの信徒への手紙一15:31）

パウロ使徒がコリンド教会（きょうかい）に送（おく）る手紙（てがみ）で、ある意味（いみ）で″私（わたし）は日々（ひび）に死（し）んでおこう″と述（の）べたのかについて調（しら）べて、パウロ使徒もが意図（いと）した意味（いみ）に含（ふく）まれないとしても″私（わたし）は日々（ひび）に死（し）んでおこう″という言葉（ことば）そのものが持（も）っている意味（いみ）を付加（ふか）してご覧（らん）ください。
第（だい）一（いち）に、″私（わたし）は日々（ひび）に死（し）なん″この言葉（ことば）はパウロ使徒の活動（かつどう）に伴（ともな）うリスクと困難（こんなん）がどうなったかをよく表（あら）わしています。パウロ使徒は主（しゅ）イエスキリストから受（う）けた使命（しめい）すぐに福音（ふくいん）を伝（つた）えるため、自分（じぶん）の命（いのち）をいつも危（あや）うくしました。彼（かれ）は福音（ふくいん）を伝（つて）えることができたらいつどこも、ユダヤ人（じん）1 回（かい）あたりにでも見知（みし）らぬ部屋（へや）都市（とし）でも水火（すいか）も辞（じ）せず尋（たず）ねました。ユダヤ人（じん）たちには彼（かれ）らの血統（けっとう）と律（りつ）法（ほう）行為（こうい）としては救援（きゅうえん）を得（え）られないことを教（おし）えました。彼（かれ）らが待（ま）つメシヤは私（わたし）たちの罪（つみ）を代（か）わりに担当（たんとう）して死亡（しぼう）して復活（ふっかつ）したイエス・キリストだと力説（りきせつ）しました。外国（がいこく）人（じん）には偶像（ぐうぞう）と私信を捨（す）てて生（い）きていた神（かみ）様（さま）ともに帰（かえ）って仕（つか）えると努（つと）めて叫（さけ）びました。
東奔西走して、福音（ふくいん）を伝（つた）える中（なか）に、同族（どうぞく）と異邦人に激（はげ）しい圧力（あつりょく）を受（う）けました。殴（なぐ）られ投獄（とうごく）され、死（し）ぬところだった危機（きき）を何（なん）度（ど）も経験（けいけん）しました。このように彼（かれ）が自分（じぶん）を毎日（まいにち）死（し）の危険（きけん）に露出（ろしゅつ）させて過（す）ごしたので,″私（わたし）は日々（ひび）に死（し）んでおこう″する彼（かれ）の話（はなし）は少（すこ）しも誇張（こちょう）されたものがない事実（じじつ）そのままでした。
第（だい）二（に）に、″私（わたし）は日々（ひび）に死（し）なん″この言葉（ことば）は昔（むかし）の人（ひと）の情（じょう）と欲（よく）を日々（ひび）十字（じゅうじ）架（か）に釘（くぎ）を刺（さ）したということを意味（いみ）します。神（かみ）様（さま）を喜（よろこ）ばせず、聖霊（せいれい）を逆（さか）らう昔（むかし）の人（ひと）の気質（きしつ）と本性（ほんしょう）の中（なか）で最（もっと）も根本（こんぽん）的（てき）なのは傲慢（ごうまん）と貪欲（どんよく）です。驕慢（きょうまん）と貪欲（どんよく）は罪悪（ざいあく）の全（すべ）ての行動（こうどう）の根（ね）です。
驕慢（きょうまん）な本性（ほんしょう）は何（なん）でも自分（じぶん）の意見（いけん）、自分（じぶん）の主張（しゅちょう）通（どお）りにしようとしています。神（かみ）様（さま）の意向（いこう）を無視（むし）して自分（じぶん）のやり方（かた）で行動（こうどう）する行為（こうい）が傲慢（ごうまん）です。そして昔（むかし）の人（ひと）の本性（ほんしょう）である貪欲を十字（じゅうじ）架（か）に釘（くぎ）を刺（さ）して殺（ころ）さなければなりません。私（わたし）たちが昔（むかし）の人（ひと）の本性（ほんしょう）を日々（ひび）十字（じゅうじ）架（か）に当（あ）てなくなる時（とき）私（わたし）たちを接（せっ）する人（ひと）たちが神（かみ）様（さま）の栄光（えいこう）と能力（のうりょく）を見（み）るようになります。
第（だい）三（さん）に、″私（わたし）は日々（ひび）に死（し）んでおこう″という言葉（ことば）そのものが持（も）っているもう一（ひと）つの意味（いみ）を見（み）てみます。この言葉（ことば）はこの世（よ）の中（なか）での暮（く）らしが限定（げんてい）的（てき）ということを意味（いみ）します。すべての人生（じんせい）にとって死（し）は必然（ひつぜん）的（てき）なものです。私（わたし）たちは生（う）まれて住（す）み始（はじ）めるその瞬間（しゅんかん）から死（し）に始（はじ）めます。一日（ついたち）を生（い）きたという言葉（ことば）は一日（いちにち）分（ぶん）命（いのち）が短縮（たんしゅく）されたという意味（いみ）が含（ふく）まれています。これを防（ふせ）ぐ手（て）だてはないです。ただ、各人（かくじん）が死（し）に到達（とうたつ）する地点（ちてん）が一定（いってい）しないだけです。
ところで人生（じんせい）がこの死（し）の恐怖（きょうふ）に隷属（れいぞく）されないようにするために神（かみ）様（さま）が御子（みこ）イエス様（さま）をこの世（よ）に送（おく）りました。神（かみ）様（さま）は私（わたし）たちを律法（りっぽう）の呪（のろ）いから贖罪して、罪（ざい）と死亡（しぼう）の権勢（けんせい）で自由（じゆう）にされようと十字（じゅうじ）架（か）に打（う）ち込（こ）まれなくて贖罪（しょくざい）の死（し）を死（し）んでお墓（はか）から復活（ふっかつ）しました。罪（ざい）のために人々（ひとびと）は死亡（しぼう）の虜の役割（やくわり）をします。この罪（つみ）をイエス・キリストが贖罪（しょくざい）しました。。。だから、イエス・キリストを信（しん）じる人（ひと）は死（し）を恐（おそ）れる恐怖（きょうふ）の鎖（くさり）につないでいる理由（りゆう）がありません。しかし罪（ざい）と律（りつ）法（ほう）で自由（じゆう）になった聖徒もこの世（よ）の中（なか）での与（あた）えられた人生（じんせい）の日数（にっすう）は限定（げんてい）されたもので、その日（ひ）が、休（やす）まずに通（とお）り過（す）ぎます。″私（わたし）は日々（ひび）に死（し）んでおこう″という言葉（ことば）がこのような事実（じじつ）を物語（ものがた）って適切（てきせつ）な表現（ひょうげん）です。
聖徒が″私（わたし）は毎日（まいにち）死（し）ぬ″という言葉（ことば）の真（しん）の意味（いみ）をいつも思（おも）いながら生（い）きたら, この世（よ）に執着（しゅうちゃく）しません。また、毎日（まいにち）敬虔（けいけん）な生活（せいかつ）をすることになります。皆（みんな）さんは、キリストと福（ふく）音（おと）のために″私（わたし）は日々（ひび）に死（し）んでおこう″と言（い）える聖徒（せいと）になれば幸（さ）いです。日々（ひび）、住（す）んでいるのが、また日々（ひび）その過程（かてい）ということを念頭（ねんとう）にするので貴重（きちょう）な日々（ひび）を感激（かんげき）と喜（よろこ）びで装飾（そうしょく）し、注意（ちゅうい）を仕事（しごと）にさらに力（ちから）を入（い）れながら、生（い）きるようになることを願（ねが）います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム中」

イエス様を眺めて信仰の競走をしましょう

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

世の中には多くの宗教があってさまざまな信仰があります．しかし救いに至るようにする信仰は一つだけです．救いに至る信仰は全面的にイエス様から始まります． 今日の本文を見れば“信仰の主よまた完全になさる人イエスキリストを眺めよう” しました．“信仰の主よまた完全になさる人イエスキリスト”という言葉は“イエス様は信仰をくださってその信仰を完成するようになさる方だ.”“イエス様は信仰の出発点で終着点になる.” “イエス様は信仰の創始者で完成者だ.” “イエス様は私たちが必ず持たなければならない信仰を持つことができるようにしてくださるだけでなくその信仰の成就を見るようにしてくださる方だ.” と説明することができます．イエス様による信仰を持つためにはイエス様を眺めなければなりません．“信仰の根源で完成者である” イエス様を注目しなければなりません．イエス様を注目しようとすればイエスキリストが行った事と将来なさる仕事が分からなければなりません．だから神様が人生たちに聖書をくださいました．イエスキリストが何を行ったし将来何の事を行うはずなのかを聖書に明らかに啓示なさいました．聖書に啓示されたそのままのイエス様を注目する人はイエス様のよる恵まれた信仰を持つようになります.そしてその信仰の完成を見るようになります.これから，私たちが注目するイエス様に対してよく見ます．

第一、十字架につけられたイエス様を眺めてください．

イエスキリストが十字架の苦難にあって宝血を流したことは私たちの罪と呪いと疾病をあがなうためでした．十字架に釘を打たれたイエス様を眺めても心を閉めている人には信仰が生じないです．ただ心を開く者にはイエスキリストのよる信仰が臨むようになります．代贖の信仰が生じて天国に対する信仰が生じます．

第二、墓から復活したイエス様を眺めてください．

復活したイエス様を眺める人には将来経験するようになる復活に対する信仰がその心霊に席を取るようになります．復活に対する信仰を持った人は現実に当面した問題が墓のように重くて息苦しくても気落ちしないです．イエス様は葬られてから三日ぶりに復活しました．苦難の瞬間は長く感じられても三日に過ぎないです．復活に対する信仰を持った人は老けることと死をすぎるほど嫌悪するとか恐ろしがらないです．復活の日に経験するようになる変化が分かって期待するからです．病むとかけがをするとか老けるとか死ぬとかする仕事がない栄え栄えしくて神霊な身を着るようになる日が約束されているからです．パウル使徒は聖霊の感動することを着てこんなに言いました．“すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。”（テサロニケ人への第一の手紙 4:16,17).

第三、神様の宝座の右側にいらっしゃるイエス様を眺めてください．

復活して天に昇りなさったイエス様は 天に上がって神様の宝座の右側に座りました．マルコによる福音書 16 章 19 節に “主イエスは彼らに語り終ってから、天にあげられ、神の右にすわられた。”と記録されています．神様の宝座の右側にいらっしゃるイエス様を眺めれば驚くべきな慰労と激励を得るようになります．初代の教会の執事であるステパノは恩恵と権能が充満して熱情的に福音を伝えました．それによってステパノはサンヘドリン公会で死刑の執行宣告を受けました．あの時ステパノが天を仰いで注目すると神様の光栄がきらめき輝いて美しくひすいは中イエスキリストが神様の宝座の右側にお立ちになっているのを見ました．ステパノは死んで行きながらも “主イエスキリストで私の魂を受けてください.” “この罪を彼らに帰されないように.”と叫びました．神様の宝座の右側にいらっしゃるイエス様を眺めたステパノに神様の大きい慰労と力が臨んだのです

第四、再臨なさるイエス様を眺めてください．

再臨なさるイエス様を注目すれば神神しい行実と敬虔することでその日を慕いながら暮すようになります．イエスキリストがおっしゃるのを“「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。”(ヨハネの黙示録 22:12)と言いました．救いは恵みで受けるが賞は神様のために働いたとおり受けるようになります．再臨なさるイエス様を注目すれば神様が私たちを神様の統治に参加するようになさる光栄を思うようになってその日に対する期待感で充満するようになります．イエスキリストがおっしゃるのを “勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。”（ヨハネの黙示録 3:21) しました．宝座は権勢と統治と光栄を象徴します．聖徒たちも神様の統治に参加する特権を得るようになります．将来近付く千年王国時代に 聖徒たちは神様とともに治める事をするようになるでしょう．それだけではなく私たち神様の統治が永遠そうに神様とともに永遠に王のようになるだろう．
次は，イエスキリストを注目するので神霊な信仰を持つようになった人はその時から信仰の競走をするようになるということをよく見ます．“こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。”（ヘブル人への手紙 12:1)とおっしゃいました．この競走は等数を付けない競走です．落伍しないで最終目標地点まで走れば良いです．途中にくたびれて倒れなければ重いことを下ろさなければなりません．かまけるものなどを処理しなければなりません．

第一，我執を投げ捨てなければなりません．
基督教会ははじめから信者たちが集まって礼拝しながら教えて学びながら奉事して付き合いました．
教会は多様な階層の人々と多様な性格の人々が集まる所なので不便で不快な場合たちができます．しかしこんなことによって自分の角い部分がこわれて整えられることができます．
ところで我執の強い人は左衝右突するとかそれとも対人忌避症に陥るようになります．我執は信仰生活の競走に重い荷です．我執を脱いでしまう最善の方法は万事を神様の中心に思って行って教会中心に思って決めるのです．

第二，執着を脱いでしまわなければなりません．世の中の地位と名誉と権勢と財物にとらわれすぎてこだわればそれらは私たちの信仰の競走に重い荷になってかまけるのがなります．テモテへの第一の手紙 6 章 10 節に “信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。”しました．財物を遠ざけなさいという意味ではないです．お金のため神様を遠ざけるほどならお金を愛することでお金にとらわれすぎるのです．社交活動，趣味生活，娯楽その何でもそれに心が傾いて信仰生活の前進を困るようにして障害になったらそれは投げ捨てなければならない執着に属します．

第三，世の中の心配と懸念を神様に任せることで脱いでしまわなければなりません．
“何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。”(ピリピ人への手紙 4:6,7)と言った言葉を実践してください

第四，苦苦しい記憶を脱いでしまわなければなりません．
苦苦しい記憶を心に保存しておけば心が押さえ付けられて重くて信仰の競走をよくすることができないです．失敗した経験，悔しい事，恥ずかしにあった事などは皆苦苦しいです．これをイエス様に申し上げて容赦と治療を深く受け入れるようにしなければなりません．

五番目，恨んで不平を言うくせを脱いでしまわなければなりません．
恨んで不平を言うくせも信仰生活の障害物です．イスラエル民たちは恨み，不平を言っている途中神様を逆らってついに偶像を崇拝する罪まで犯してしまいました．恨みと不平は広野の行進を広野の彷徨になるようにしました．皆さんは重いこととかまけやすい罪を脱いでしまって信仰の競走を力強いようにしてください．
終りに，“忍耐として私たち前にあった競走を競走しよう”という言葉をよく見ます．
忍耐して競走するために私たちが心に留めて思わなければならないことは “イエス様はその前にある楽しみのために十字架を耐え忍んで恥ずかしさを気に止めなかったのに神様の宝座の右側に座った”という言葉です．イエス様はその前にある楽しみのために 恥ずかしいと蔑視の十字架を耐えました．その前にある楽しみと言う復活して神様の宝座の右側に座ることだけではなく幾多の罪人たちが救いを得るようになることを意味します．私たちも信仰の競走をした後に享受するようになる楽しさを思いながら忍耐して競走しなければなりません．

イエス様を注目してください．十字架につけられたイエス様，復活したイエス様，神様の宝座の右側に座ったイエス様，再臨なさるイエス様を眺めてください．そんなにすれば皆さんは救いと復活とかぎりがない慰労と治める光栄と報いと神様の楽しさに参加することに対する信仰を得るようになるでしょう．そしてその信仰が完全に体験される日を迎えるようになるでしょう．皆さん皆が信仰の根源で完成者であるイエス様を眺めて信仰の競走を完走するようにお願いします．